

都市再生整備計画 事後評価シート  
熊本駅周辺地区

平成23年3月

熊本県熊本市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	熊本県	市町村名	熊本市	地区名	熊本駅周辺地区			面積	358ha				
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	12000.8百万円	国費率	0.406						
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	街路事業(2路線)、道路事業(1路線)、公園、高次都市施設(地域交流センター)、土地区画整理事業(都市再生)										
		提案事業	(仮)情報センター、土地区画整理事業、コミュニティセンター整備(駅西地区)、熊本駅都心間まちづくり推進制度、市街地形成地区整備推進業務										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	坪井川親水空間整備	事業費の減額により、要件に合致しなくなり、提案事業へ移行したため。			基幹事業から提案事業への意向であるため、影響はしない。						
		提案事業	道路雨水対策事業	当該事業について、認可変更を行い、基幹事業(道路)で施工したため。			当該事業を基幹事業(道路)で施工したため、影響はしない。						
	新たに追加した事業	基幹事業	道路・地区施設(南A地区)、(仮)二本木線、高質空間形成施設:熊本駅都心間、熊本駅西地区	同提案事業(市街地形成地区整備推進事業)において地区計画の策定を行い、そこで決定した地区計画の整備を行うもの。その他、目標達成に大きく寄与する事業を追加した。			すべての指標に関係するが、数値目標は据え置く。						
提案事業		コミュニティセンター(古町)、コミュニティセンター整備事業(白坪)、屋上等緑化助成、路面電車優先信号整備、軌道敷緑化、五福まちづくり交流センター改修事業、坪井川親水空間整備、白川河川敷利活用、地下水都市熊本空間創出事業、熊本市熊本駅都心間協働のまちづくり推進制度、熊本駅周辺整備事業効果分析	各種事業の相乗効果により、目標達成に大きく寄与すると考えられる事業について追加を行った。			すべての指標に関係するが、数値目標は据え置く。							
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	平成	年度	～平成	年度								
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	熊本駅観光案内所利用者数	人/年	42,395	H16	50,000	H22	89,565	90,000	○	あり	観光案内所が平成17年に改札口に近づくところに移転したことが最大の要因である。その他の要因として、熊本城築城400年祭による観光客の増加が考えられる。さらに、九州新幹線鹿児島ルート全線開通に向けて、熊本駅周辺地域において重点的に街並みを整備し、また、都心部と熊本駅周辺をつなぐ一体のまちづくりを実施したことにより、街の魅力が向上したために、観光客の増加につながったものと考えられる。	平成24年4月
	指標2	整備基本計画区域内建築着工数	件	36	H12-H16	80	H18-H22	80	95	○	あり	土地区画整理事業等が進んだことにより、新築着工数が増加したと考えられる。さらに、今後、九州新幹線開業・新合同庁舎業務開始を期に、新規の民間開発が予想される。	平成24年8月
	指標3	整備基本計画区域内狭隘道路率	%	18.7	H17	10.0	H22	7.9	7.1	○	あり	土地区画整理事業、各種道路事業等の実施により、確実に狭隘道路が少なくなり、良好な道路空間が整備されている。	平成23年度内
	指標4	熊本駅乗降者数	千人/年	7,788	H16	7,800	H22	7,305	7,800	△	あり	平成21年度にやや減少した要因として、熊本駅西土地区画整理事業や熊本駅東側の幹線道路整備、市街地再開発事業等により、従前居住者が流出したことから、一時的に減少したことが考えられる。また、熊本駅周辺整備に伴い駅周辺が混雑しているため、JRの他の駅に人が流れた可能性もある。しかし、これから土地区画整理事業も完了し、駅東側においても道路事業等が完了し、民間開発も進み、熊本駅の利用者は増加するものと考えられる。	平成24年7月
	指標5	都市再生整備計画区域内住宅床面積	m <sup>2</sup>	99,206	H12-H16	125,000	H18-H22	187,886	222,334	○	あり	生活利便施設であるコミュニティセンターや公園、河川敷整備、土地区画整理事業等を行ったことにより、生活しやすい環境が形成され、新築住宅が増加したものと考えられる。	平成24年8月
指標6	都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積	m <sup>2</sup>	45,748	H12-H16	90,000	H18-H22	68,571	58,946	△	あり	幹線道路、生活道路、土地区画整理事業などの都市基盤整備が行われたことにより、商業・業務・公益施設の新規進出は着実に増えているが、平成20年秋のリーマンショックに端を発する世界的な金融危機以降、駅周辺の民間開発意欲が低下したため、予想通りに進まなかったと考えられる。	平成24年8月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	その他の数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	その他の数値指標2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
その他の数値指標3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
4) 定性的な効果発現状況	*提案事業(まちづくり活動推進事業)により、熊本駅周辺地区の地区計画の策定(高度利用型の地区計画)を行い、高容積の建築物を誘導することによる民間の開発意欲の増加が想定される。												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況					今後の対応方針等				
	モニタリング	HPによる公表・意見聴取、評価委員会からの意見聴取		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	評価委員会からの意見を考慮して、新規に指標を3つ追加した。今後、指標の達成状況を確認していく。					
	住民参加プロセス	まちづくり推進協議会の開催 都市空間デザイン会議の開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	事業実施の際に、計画段階から学識、市民の意見を聞き、可能な限り事業に反映させる。					
	持続的なまちづくり体制の構築	まちづくり推進協議会の開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	事業実施の際に、計画段階から学識、市民の意見を聞き、可能な限り事業に反映させる。					

## 様式2-2 地区の概要

熊本駅周辺地区(熊本県熊本市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：熊本の玄関口にふさわしい「出会い」と「ふれ合い」の副都心の形成 目標-1 主要幹線街路や生活道路の整備を行うことにより、商業・業務・観光・文化等の都市機能の集積を図る。 目標-2 人にやさしく利便性の高い生活環境を形成し、新しい都市生活を創造する。 目標-3 広域交通結節機能の強化を活かし、多様な人々の交流促進と賑わいのある都市空間を創出する。		熊本駅観光案内所利用者数	単位:人/年	42,395	H16	50,000	H22	90,000	H22
		整備基本計画区域内建築着工数	単位:件	36	H12-H16	80	H18-H22	95	H18-H22
		整備基本計画区域内狭隘道路率	単位:%	18.7	H17	10.0	H22	7.1	H22
		熊本駅乗降者数	単位:千人/年	7,788	H16	7,800	H22	7,800	H22
		都市再生整備計画区域内住宅床面積	単位:m <sup>2</sup>	99,206	H12-H16	125,000	H18-H22	222,334	H18-H22
		都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積	単位:m <sup>2</sup>	45,748	H12-H16	90,000	H18-H22	58,946	H18-H22
<p> <b>【住宅市街地総合整備事業】</b>            熊本駅西地区            熊本駅西土地区画整理事業(道路特会)            熊本駅西土地区画整理事業            熊本駅西土地区画整理事業(都市再生)            万日屋敷公園            合同庁舎周辺            コミュニティセンター(熊本駅西)            熊本駅西口駅前広場・街路等高質空間形成事業            市街地形成地区整備推進事業            坪井川親水空間            ストリートファニチャー整備事業            【街路事業】            (都)春日池上線            (都)熊本駅新外線            鹿児島本線等連続立体交差事業            五福まちづくり交流センター改修事業            地下水都市熊本空間創出事業            屋上等緑化助成事業            熊本市熊本駅都心間協働のまちづくり推進制度            熊本駅都心間まちづくり調査            路面電車優先信号整備事業            熊本市街地整備事業効果分析         </p> <p> <b>凡例</b>  <span style="background-color: yellow; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 基幹事業  <span style="background-color: lightblue; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 提案事業  <span style="border: 1px dashed black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 関連事業         </p>									
まちの課題の変化	熊本駅周辺は、都市基盤が脆弱であり、低・未利用地が多かったが、九州新幹線鹿児島ルート全線開業に向けて、国・県・市・JR等が一体となり様々な事業を展開していることにより、JR熊本駅周辺のインフラが整いつつあり、熊本らしさを感じることのできる場所になってきている。今後は、都心部と熊本駅周辺をつなぐ一体のまちづくりが課題となる。								
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	■熊本駅西地区においては、都市型住宅と商業・業務施設の適正な配置のために、地元の意向に沿って良好な街並み形成を図る。 ■熊本市施行の熊本駅前東A地区第二種市街地再開発事業を着実に進め、多目的ホール、図書館、観光郷土情報センターなどの平成23年10月のオープンを目指す。								

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	-	-	-
B. 目標を定量化する指標	●		熊本駅観光案内所利用者数 整備基本計画区域内建築着工数 整備基本計画区域内狭隘道路率	熊本駅観光案内所利用者数 整備基本計画区域内建築着工数 整備基本計画区域内狭隘道路率 熊本駅乗降者数 都市再生整備計画区域内住宅床面積 都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積	当初設定した狭隘道路率はアウトプット指標であり、観光案内所は平成17年に場所が移動したことにより変動が大きかったです。これらの状況を踏まえてモニタリングの手続きの中の評価委員会で意見をもらい、これらを補完するために3つの指標の追加をおこなった。
C. 目標値		●	-	-	-
D. その他( )		●	-	-	-

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(都)熊本駅南線	525	約110m	540	約110m	事業費精査の結果増額修正	事業量は変化していないので、数値目標は据え置く。	●	
道路	地区施設(南A地区)	-	-	206.0	約73m	平成20年に計画変更して追加	整備基本計画区域内狭隘道路率、都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積などの指標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
道路	合同庁舎周辺	127	約220m	8.4	約220m	事業費精査の結果減額修正	整備基本計画区域内狭隘道路率、都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積などの指標に関係するが、数値目標は据え置く。	●	
道路	(都)新土河原出水線	1,400	約640m	1,970	約640m	事業費精査の結果増額修正	整備基本計画区域内狭隘道路率、都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積などの指標に関係するが、数値目標は据え置く。	●	
道路	(仮)市道二本木線	-	-	203.6	約120m	平成19年に計画変更して追加	整備基本計画区域内狭隘道路率、都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積などの指標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
公園	万日屋敷公園	18	約1,100㎡	21.7	約1,100㎡	事業計画見直しに伴う事業費の増加	整備基本計画区域内狭隘道路率など、すべての指標に関係するが、数値目標は据え置く。	●	
河川	坪井川親水空間	300	約1,500㎡	-	-	基幹事業(河川)から提案事業(地域創造支援事業)へ移行(削除)	提案事業へ移行するため、数値目標は据え置く。	-	-
下水道	-	-	-	-	-	-	-	-	-
駐車場有効利用システム	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地域生活基盤施設	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高質空間形成施設	熊本駅都心間	-	-	2.3	14基	平成18年に計画変更して追加	熊本駅観光案内所利用者数、熊本駅乗降者数などの指標に関係するが、数値目標は据え置く。	●	
高質空間形成施設	熊本駅西地区	-	-	526.0	約5,700㎡ 約1,400m	平成20年に計画変更して追加	熊本駅観光案内所利用者数、熊本駅乗降者数などの指標に関係するが、数値目標は据え置く。	●	
高次都市施設	熊本駅前東A地区	3,000	約4,000㎡	1,340	約4,900㎡	実施設計完了に伴う保留床面積の修正・実施設計完了に伴う事業費の精査	都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積などに関係するが、数値目標は据え置く。		●
既存建造物活用事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都市再生交通拠点整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
土地区画整理事業(都市再生)	熊本駅西(都市再生区画整理)	4,810	18.1ha	4,666.5	18.1ha	事業量精査の結果減額修正	事業量は変化していないので、数値目標は据え置く。	●	
住宅市街地総合整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
バリアフリー環境整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
優良建築物等整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
住宅市街地総合整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
街なみ環境整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
住宅地区改良事業等	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都心共同住宅供給事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公営住宅等整備	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都市再生住宅等整備	-	-	-	-	-	-	-	-	-
防災街区整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	情報交流施設	3,000	約4,000㎡	1,346	約4,600㎡	実施設計完了に伴う保留床面積の 修正・事業費の精査	都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積などに関係する が、数値目標は据え置く。		●
	土地区画整理事業(市町村単独)	350	18.1ha	554	18.1ha	事業費精査の結果増額修正	整備基本計画区域内狭隘道路率、都市再生整備計画区域内住宅 床面積などの指標に関係するが、数値目標は据え置く。	●	
	コミュニティーセンター整備事業(駅 西)	150	約400㎡	94	約400㎡	事業費精査の結果減額修正	都市再生整備計画区域内住宅床面積などの指標に関係するが、数 値目標は据え置く。	●	
	コミュニティーセンター整備事業(古 町)	-	-	58	約280㎡	平成18年に計画変更して追加	都市再生整備計画区域内住宅床面積などの指標に関係するが、数 値目標は据え置く。	●	
	コミュニティーセンター整備事業(白 坪)	-	-	50	約250㎡	平成21年に計画変更して追加	都市再生整備計画区域内住宅床面積などの指標に関係するが、数 値目標は据え置く。	●	
	屋上等緑化助成事業	-	-	1	-	平成20年に計画変更して追加	都市再生整備計画区域内住宅床面積などの指標に関係するが、数 値目標は据え置く。	●	
	路面電車優先信号整備事業	-	-	15	約2.5km	平成18年に計画変更して追加	熊本駅観光案内所利用者数、熊本駅乗降者数などの指標と関係す るが、数値目標は据え置く。	●	
	五福まちづくり交流センター改修事業	-	-	5	約300㎡	平成18年に計画変更して追加	都市再生整備計画区域内住宅床面積などの指標に関係するが、数 値目標は据え置く。	●	
	白川河川敷利活用	-	-	19	約130ha	平成19年に計画変更して追加	整備基本計画区域内建築着工数、都市再生整備計画区域内住宅 床面積などの指標に関係するが、数値目標は据え置く。	●	
	坪井川親水空間整備事業	-	-	81	約1,500 ㎡	平成19年に計画変更して追加	基幹事業(河川)からの移行であるため、数値目標は据え置く。		●
	市電軌道敷緑化事業	-	-	39	約600m	平成20年に計画変更して追加	熊本駅観光案内所利用者数、熊本駅乗降者数などの指標と関係す るが、数値目標は据え置く。	●	
	地下水都市熊本空間創出事業	-	-	49	4箇所	平成21年に計画変更して追加	熊本駅観光案内所利用者数、熊本駅乗降者数などの指標と関係す るが、数値目標は据え置く。	●	
	熊本市熊本駅都心間協働のまちづく り推進制度	-	-	0.3	-	平成20年に計画変更して追加	熊本駅観光案内所利用者数、熊本駅乗降者数などの指標と関係す るが、数値目標は据え置く。	●	
	道路雨水対策事業	400	約270m	-	-	街路:新土河原出水線(基幹事業) の事業認可変更を行い、その中 で本事業を施工したため削除	基幹事業(道路)で施工したため、実質的には当初計画と変わって いないので、数値目標は据え置く。	●	
事業活用調査	熊本駅周辺整備事業効果分析	-	-	3	-	平成19年に計画変更して追加	-	●	
まちづくり 活動推進事業	市街地形成地区整備推進事業	50	-	34	-	事業量精査の結果減額修正	都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積などに関係する が、数値目標は据え置く。	●	
	熊本駅都心間まちづくり調査	5	-	4	-	事業量精査の結果減額修正	熊本駅観光案内所利用者数、熊本駅乗降者数などの指標と関係す るが、数値目標は据え置く。	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

**(参考)関連事業**

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
連続立体交差事業		JR鹿児島本線外	55,000	55,000	H14-H28	H14-H28	順調に進んでいる。	
土地区画整理事業(道路特会)		熊本駅西	11,029	11,029	H13-H28	H13-H28	順調に進んでいる。	
街路事業		春日池上線外3路線	19,600	19,600	H13-H30	H13-H30	順調に進んでいる。	
熊本駅前東A地区第二種市街地再開発事業		熊本駅前東A地区	9,600	20,500	H18-H23	H18-H24	1年間、進捗が遅れている。	これに伴い、高次都市施設、地域創造支援(情報交流施設)が遅れが生じる。
住宅市街地総合整備事業		熊本駅西地区	1,900	1,900	H18-H28	H18-H28	順調に進んでいる。	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし		
指標1	熊本駅観光案内所利用者数	人/年	熊本駅構内にある観光案内所利用者数の平成21年度までの傾向から、評価基準日における評価値を推計。	35,835	H12	42,395	H16	50,000	H22	モニタリング	H22.7	89,565	モニタリング	○		
										事後評価	確定見込み ●	90,000	事後評価	○		
指標2	整備基本計画区域内建築着工数	件	平成21年度までの整備基本計画区域内の建築確認件数から、評価基準日における評価値を推計。	-	-	36	H12-H16	80	H18-H22	モニタリング	H16-H20	80	モニタリング	○		
										事後評価	確定見込み ●	95	事後評価	○		
指標3	整備基本計画区域内狭隘道路率	%	平成22年度末時点の整備基本計画区域内の幅員4m未満道路延長の道路総延長に対する比率をGISで計測し、評価基準日における評価値を推計。	-	-	18.7	H17	10.0	H22	モニタリング	H22.7	7.9	モニタリング	○		
										事後評価	確定見込み ●	7.1	事後評価	○		
指標4	熊本駅乗降者数	千人/年	熊本駅改札における乗降者数の平成21年度までの傾向から、評価基準日における評価値を推計。	9,228	H9	7,788	H16	7,800	H22	モニタリング	H22.7	7,305	モニタリング	△	●	
										事後評価	確定見込み ●	7,800	事後評価	△		
指標5	都市再生整備計画区域内住宅床面積	㎡	平成21年度までの建築確認申請データから、都市再生整備計画区域内の新築住宅床面積を計測し、評価基準日における評価値を推計。	-	-	99,206	H12-H16	125,000	H18-H22	モニタリング	H17-H21	187,886	モニタリング	○		
										事後評価	確定見込み ●	222,334	事後評価	○		
指標6	都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積	㎡	平成21年度までの建築確認申請データから、都市再生整備計画区域内の新築商業・公益施設床面積を計測し、評価基準日における評価値を推計。	-	-	45,748	H12-H16	90,000	H18-H22	モニタリング	H17-H21	68,571	モニタリング	△		●
										事後評価	確定見込み ●	58,946	事後評価	△		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	平成19年度に熊本城築城400年のイベントが開催され、平成20年度には沖縄県の首里城を抜いて年間入場者数が200万人を突破し、全国1位となった。また近年では外国人観光客も増加していることから、これらの影響で増加したものとと思われる。	平成17年度中に観光案内所の場所が移動し、改札口に近くなった。
指標2	整備基本計画区域内では、土地区画整理事業、各種道路事業、市街地再開発事業等が行われており、順調に都市機能が健全化していると考えられる。	
指標3	熊本駅周辺の各種事業が順調に進捗しているため、確実に目標達成が可能である。	
指標4	熊本駅西土地区画整理事業や熊本駅東側の幹線道路整備、市街地再開発事業等により、従前居住者が流出したことから、一時的に減少したことが考えられる。また、熊本駅周辺整備に伴い駅周辺が混雑しているため、JRの他の駅に人が流れた可能性もある。しかし、これから土地区画整理事業も完了し、駅東側においても道路事業等が完了し、民間開発も進み、熊本駅の利用者は増加するものと考えられる。	
指標5	生活利便施設であるコミュニティセンターや公園、河川敷整備、土地区画整理事業等を行ったことにより、生活しやすい環境が形成され、新築住宅が増加したものと考えられる。	
指標6	幹線道路、生活道路、土地区画整理事業などの都市基盤整備が行われることにより、商業・業務・公益施設の新規進出は着実に増えている。しかし、平成20年秋のリーマンショックに端を発する世界的な金融危機以降、駅周辺の民間開発意欲が低下したため、予想通りに進まなかったと考えられる。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度			
その他の数値指標1	-	-	-	-	-	-	モニタリング	-	-
							事後評価		
その他の数値指標2	-	-	-	-	-	-	モニタリング	-	-
							事後評価		
その他の数値指標3	-	-	-	-	-	-	モニタリング	-	-
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・提案事業(まちづくり活動推進事業)により、熊本駅周辺地区の地区計画の策定(高度利用型の地区計画)を行い、高容積の建築物を誘導することによる民間の開発意欲の増加が想定される。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等	
HPIによる公表・意見聴取、まちづくり交付金評価委員会からの意見聴取を行った。評価委員会においては、次の事項を行った。  ・都市再生整備計画書に記載の事業概要説明 ・指標の達成状況の確認 ・当初の指標設定に対する意見 ・事業に対する見直し等の意見 ・追加することが望ましい新たな指標の提案	予定どおり実施した	【実施頻度】H21年度に1回 【実施時期】平成21年4月～10月 【実施結果】指標についての意見あり	当初設定した指標がアウトプット指標があり、また、指標にしている観光案内所の場所が移動したことなどの理由から、別の指標を追加で設定した。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった(理由)			

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等	
まちづくり推進協議会の開催  都市空間デザイン会議の開催	予定どおり実施した	各年度1回、事業者より各事業の進捗等の説明を行い、駅周辺の統一したデザインと事業進捗の確認を行った。その中で、学識、市民からの意見ももらった。	各事業間のデザイン調整に向けて、事業者間の連携を図る。また、計画段階から学識、市民の意見を聞き、可能な限り事業に反映させる。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった(理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等	
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要		
まちづくり推進協議会の開催	予定どおり実施した	学識、市民、行政をメンバーとしたまちづくり検討組織を立ち上げた。	まちづくり推進会議	事業実施の際に、計画段階から学識、市民の意見を聞き、可能な限り事業に反映させる。	
	予定はなかったが実施した				●
	予定したが実施できなかった(理由)				
	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった(理由)				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織 (まちづくり交付金事後評価検討チーム)	主管部署: 都心活性化推進課 熊本駅周辺地区担当: 熊本駅周辺整備事務所 関係部署(土木総務課、産業政策課、開発景観課、水保全課、緑保全課、地域づくり推進課、交通計画課、都心活性化推進課)	平成22年6月10日: 1回目 平成22年8月19日: 2回目	熊本駅周辺地区担当: 熊本駅周辺整備事務所

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標2		指標3		指標4	
指標名		熊本駅観光案内所利用者数		整備基本計画区域内建築着工数		整備基本計画区域内狭隘道路率		熊本駅乗降者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	街路:(都)熊本駅南線	-	観光案内所が平成17年に改札口に近いところに移転したことが最大の要因である。その他の要因として、熊本城築城400年祭による観光客の増加が考えられる。さらに、九州新幹線鹿児島ルート全線開通に向けて、熊本駅周辺地域において重点的に街並みを整備し、また、都心部と熊本駅周辺をつなぐ一体のまちづくりを実施したことにより、街の魅力が向上したために、観光客の増加につながったものと考えられる。	○	土地区画整理事業等が進んだことにより、新築着工数が増加したと考えられる。さらに、今後、九州新幹線開業・新合同庁舎業務開始を期に、新規の民間開発が予想される。	◎	土地区画整理事業、各種道路事業等の実施により、確実に狭隘道路が少なくなり、良好な道路空間が整備されている。	-	平成21年度にやや減少した要因として、熊本駅西土地区画整理事業や熊本駅東側の幹線道路整備、市街地再開発事業等により、従前居住者が流出したことから、一時的に減少したことが考えられる。また、熊本駅周辺整備に伴い駅周辺が混雑しているため、JRの他の駅に人が流れた可能性もある。しかし、これから土地区画整理事業も完了し、駅東側においても道路事業等が完了し、民間開発も進み、熊本駅の利用者は増加するものと考えられる。
	道路: 合同庁舎周辺	-		○		◎			
	街路:(都)新土河原出水線	-		○		◎			
	道路:(仮)市道二本木線	-		○		◎			
	道路: 地区施設(南A地区)	-		○		◎			
	公園: 万日屋敷公園	-		○		◎			
	高質空間: 熊本駅都心間	◎		○		◎			
	高質空間: 熊本駅西地区	◎		○		◎			
	高次都市: 熊本駅前東A地区	○		○		◎			
	土地区画整理: 熊本駅西(都市再生区画整理)	-		○		◎			
提案事業	情報交流施設	-	○	○	-	○			
	土地区画整理事業(市町村単独)	-	○	○	-	○			
	コミュニティーセンター整備事業(駅西)	-	○	○	-	○			
	コミュニティーセンター整備事業(古町)	-	○	○	-	○			
	コミュニティーセンター整備事業(白坪)	-	○	○	-	○			
	屋上等緑化助成事業	○	○	○	-	○			
	路面電車優先信号整備事業	◎	-	-	-	◎			
	五福まちづくり交流センター改修事業	-	○	○	-	○			
	白川河川敷利活用	○	○	○	-	○			
	坪井川親水空間整備事業	○	○	○	-	○			
	市電軌道敷緑化事業	○	○	○	-	○			
	地下水都市熊本空間創出事業	○	○	○	-	○			
	熊本市熊本駅都心間協働のまちづくり推進制度	○	○	○	-	○			
	熊本駅周辺整備事業効果分析	-	○	○	-	○			
市街地形成地区整備推進事業	-	○	○	-	○				
熊本駅都心間まちづくり調査	○	○	○	-	○				
関連事業	連続立体交差事業(JR鹿児島本線外)	◎	○	○	-	◎			
	土地区画整理事業(道路特会)熊本駅西	-	○	○	-	○			
	街路事業(春日池上線外3路線)	-	○	○	-	○			
	第一種市街地再開発事業(熊本駅前東A地区)	◎	○	○	-	◎			
	住宅市街地総合整備事業(熊本駅西地区)	-	○	○	-	○			

※指標改善への貢献度  
 ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。  
 ○: 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。  
 △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。  
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	指標4
熊本駅周辺だけでなく、都心部と一体となったまちづくりを推進し、更なる魅力アップに取り組む必要がある。	今後も地域に密着したまちづくりを推進し、生活しやすいまちづくりを推進していく必要がある。さらに、幹線道路沿線については、商業・業務施設など民間開発を誘導する必要がある。	今後も4m未満の道路を減少させるために、幹線道路のみならず生活道路の整備も行う必要がある。	熊本駅周辺だけでなく、都心部と熊本駅周辺をつなぐ一体のまちづくりを進める。	

指標の種別		指標5					
指標名		都市再生整備計画区域内住宅床面積					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	街路:(都)熊本駅南線	○	生活利便施設であるコミュニティセンターや公園、河川敷整備、土地区画整理事業等を行ったことにより、生活しやすい環境が形成され、新築住宅が増加したものと考えられる。				
	道路:合同庁舎周辺	○					
	街路:(都)新土河原出水線	○					
	道路:(仮)市道二本木線	○					
	道路:地区施設(南A地区)	○					
	公園:万日屋敷公園	◎					
	高質空間:熊本駅都心間	○					
	高質空間:熊本駅西地区	-					
	高次都市:熊本駅前東A地区	○					
	土地区画整理:熊本駅西(都市再生区画整理)	◎					
提案事業	情報交流施設	○					
	土地区画整理事業(市町村単独)	◎					
	コミュニティーセンター整備事業(駅西)	○					
	コミュニティーセンター整備事業(古町)	○					
	コミュニティーセンター整備事業(白坪)	○					
	屋上等緑化助成事業	○					
	路面電車優先信号整備事業	-					
	五福まちづくり交流センター改修事業	○					
	白川河川敷利活用	○					
	坪井川親水空間整備事業	○					
	市電軌道敷緑化事業	○					
	地下水都市熊本空間創出事業	○					
	熊本市熊本駅都心間協働のまちづくり推進制度	○					
	熊本駅周辺整備事業効果分析	-					
市街地形成地区整備推進事業	◎						
熊本駅都心間まちづくり調査	○						
関連事業	連続立体交差事業(JR鹿児島本線外)	○					
	土地区画整理事業(道路特会)熊本駅西	◎					
	街路事業(春日池上線外3路線)	○					
	第二種市街地再開発事業(熊本駅前東A地区)	◎					
	住宅市街地総合整備事業(熊本駅西地区)	◎					

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も地域に密着したまちづくりを推進し、生活しやすいまちづくりを推進していく必要がある。			
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標6											
指標名		都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	街路：(都)熊本駅南線	△	幹線道路、生活道路、土地区画整理事業などの都市基盤整備が行われることにより、商業・業務・公益施設の新規進出は着実に増えているが、平成20年秋のリーマンショックに端を発する世界的な金融危機以降、駅周辺の民間開発意欲が低下したため、予想通りに進まなかったと考えられる。	Ⅲ									
	道路：合同庁舎周辺	△											
	街路：(都)新土河原出水線	△											
	道路：(仮)市道二本木線	△											
	道路：地区施設(南A地区)	△											
	公園：方日屋敷公園	△											
	高質空間：熊本駅都心間	△											
提案事業	高質空間：熊本駅西地区	△											
	高次都市：熊本駅前東A地区	△											
	土地区画整理：熊本駅西(都市再生区画整理)	△											
	情報交流施設	△											
	土地区画整理事業(市町村単独)	△											
	コミュニティーセンター整備事業(駅西)	△											
	コミュニティーセンター整備事業(古町)	△											
	コミュニティーセンター整備事業(白坪)	△											
	屋上等緑化助成事業	△											
	路面電車優先信号整備事業	-											
	五福まちづくり交流センター改修事業	△											
	白川河川敷利活用	△											
	坪井川親水空間整備事業	△											
	市電軌道敷緑化事業	△											
	地下水都市熊本空間創出事業	△											
熊本市熊本駅都心間協働のまちづくり推進制度	△												
熊本市熊本駅周辺整備事業効果分析	-												
市街地形成地区整備推進事業	△												
熊本市都心間まちづくり調査	△												
関連事業	連続立体交差事業(JR鹿児島本線外)	△											
	土地区画整理事業(道路特区)熊本駅西	△											
	街路事業(春日池上線外3路線)	△											
	第二種市街地再開発事業(熊本駅前東A地区)	△											
	住宅市街地総合整備事業(熊本駅西地区)	△											

※目標未達成への影響度  
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。  
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。  
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。  
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類  
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。  
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針(記入は必須)	景気の回復と共に当該施設も増加基調に転じると考えられるが、市としても、幹線道路沿線については、商業・業務施設など民間開発を誘導する必要があるのである。			
--------------	---	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織 (都市再生整備計画事後評価検討チーム)	都市再生整備計画担当課: 都心活性推進課 熊本駅周辺地区担当: 熊本駅周辺整備事務所 関係部署(土木総務課、産業政策課、開発景観課、水保全課、緑保全課、地域づくり推進課、交通計画課、都心活性推進課)	平成22年6月10日: 1回目 平成22年8月19日: 2回目	熊本駅周辺地区担当: 熊本駅周辺整備事務所

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
連続立体交差事業と併せた東西市街地を結ぶ幹線道路整備	平成23年3月の九州新幹線鹿児島ルート全線開業に向けて、熊本県・市が一丸となって幹線道路等の整備を行った結果、指標1, 2, 3, 4, 5が達成できる見込みである。	-	
熊本駅東側における先導的な高次都市施設の導入や都市空間の魅力向上を図る都市基盤整備	全国でも19都市にしかない路面電車を活用して、軌道敷緑化、路面電車優先信号整備など各種の事業を行った。その他、熊本駅前東A地区市街地再開発事業の中で、多目的ホール、図書館、観光郷土情報センターなどの整備を行っている。また、一級河川、二級河川の環境整備も行っている。さらに、幹線道路においては、緑を多用し、熊本市の特徴である地下水をアピールする噴水施設の整備も行っており、魅力的な都市基盤整備ができる。その結果、指標1, 2, 3, 4, 5が達成できる見込みである。	・熊本駅前東A地区市街地再開発事業の進捗に合わせて、その中に入居する多目的ホール、図書館、観光郷土情報センターなどの早期整備を目指す。	
熊本駅西側における良好な居住環境が整った都市型居住地としてのまちづくり推進	熊本駅西側においては、土地区画整理事業が順調に進捗しており、良好な都市基盤が整備され、着実に都市型住宅地への転換が図られており、残り数年で事業完了の見込みである。その結果、指標1, 2, 3, 4, 5が達成できる見込みである。	-	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	連続立体交差事業と併せた東西市街地を結ぶ幹線道路整備	・連続立体交差事業は、平成28年度まで続くが、平成24年の政令指定都市移行を目指して協議が進められており、権限委譲等が発生する。今後も熊本県・市一丸となって各種事業に取り組む。	・各種道路事業
	ハード・ソフト両面からの魅力ある都市基盤の整備	・都心部との回遊性をさらに向上させるために、熊本駅周辺から都心部までのつながりができるように、ソフト面での支援を行うとともに、市としてもハード・ソフト事業を展開していく。	・まちづくり活動運営支援
	土地区画整理事業の推進	・都市型住宅と商業・業務施設の適正な配置のために、地元の意向に沿って良好な街並み形成を図る。	・まちづくり活動運営支援

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	多目的ホール、図書館、観光郷土情報センターなどの早期整備	熊本市施行の熊本駅前東A地区第二種市街地再開発事業を着実に進め、多目的ホール、図書館、観光郷土情報センターなどの平成23年10月のオープンを目指す。	・熊本駅前東A地区第二種市街地再開発事業

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

-
---

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	熊本駅観光案内所利用者数	人/年	42,395	H16	50,000	H22	確定 見込み ●	90,000	○	あり なし	→	平成24年4月	平成24年4月に熊本市観光政策課で発行する「観光統計書」を基に確認を行い、平成22、23年度分のデータを把握し確定値とする。	
指標2	整備基本計画区域内建築着工数	件	36	H12-H16	80	H18-H22	確定 見込み ●	95	○	あり なし	→	平成24年8月	平成24年6月に、熊本市建築指導課より平成22年度、平成23年度の建築確認申請のデータを取得・整理し確定値とする。(平成18年度～平成22年度)(平成19年度～平成23年度)	
指標3	整備基本計画区域内狭隘道路率	%	18.7	H17	10.0	H22	確定 見込み ●	7.1	○	あり なし	→	平成23年度内	すべての事業が完了後に、再計測を行い、確定値とする。	
指標4	熊本駅乗降者数	千人/年	7,788	H16	7,800	H22	確定 見込み ●	7,800	△	あり なし ●	→	平成24年7月	平成24年7月に九州旅客鉄道株式会社(総務課)に、平成22年度、平成23年度の乗降客数のヒアリングを行い確定値とする。	
指標5	都市再生整備計画区域内住宅床面積	m <sup>2</sup>	99,206	H12-H16	125,000	H18-H22	確定 見込み ●	222,334	○	あり なし	→	平成24年8月	平成24年6月に、熊本市建築指導課より平成22年度、平成23年度の建築確認申請のデータを取得・整理し確定値とする。(平成18年度～平成22年度)(平成19年度～平成23年度)	
指標6	都市再生整備計画区域内商業・公共施設床面積	m <sup>2</sup>	45,748	H12-H16	90,000	H18-H22	確定 見込み ●	58,946	△	あり なし ●	→	平成24年8月	平成24年6月に、熊本市建築指導課より平成22年度、平成23年度の建築確認申請のデータを取得・整理し確定値とする。(平成18年度～平成22年度)(平成19年度～平成23年度)	
その他の数値指標1	-	-	-	H	/	/	確定 見込み	-	/	/	→	-	-	-
その他の数値指標2	-	-	-	H	/	/	確定 見込み	-	/	/	→	-	-	-
その他の数値指標3	-	-	-	H	/	/	確定 見込み	-	/	/	→	-	-	-

### 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	モニタリングを実施したことにより、適切な数値目標への変更が可能となった。	・評価委員会を早期に開催し、計画書作成段階の事前評価の段階から、学識者等の意見を反映させておくと、その後のモニタリング、事後評価がスムーズに流れる。
	うまくいかなかった点	狭隘道路率の改善はアウトプット指標であるため、アウトカム指標にしたほうがいいのではという意見があり、指標を追加した。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	当初計画から徐々に事業数も増加していったため、モニタリングの実施を機に改めて数値目標と目標・事業との整合性を振り返ることができた。	・指標は、事業との整合を十分に検討した上で設定し、それらの関連性が明確になるようにすることが望ましい。
	うまくいかなかった点	当初都市再生整備計画書作成直後に、熊本駅観光案内所の場所が移動したため、その前後でかなりの利用者数の変動があった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	-	ホームページ掲載や情報公開窓口での閲覧だけでなく、地元で報告会を行うなど、積極的なパブリックコメントを実施することが必要である。また、市政だよりへの掲載は実施の2ヶ月前までには手続きの時期を確定させておく必要があるため、余裕をもった手続きを行う。
	うまくいかなかった点	モニタリングの際の意見聴取の結果、意見が0件であった。ホームページへの掲載や情報公開窓口で閲覧する前に、市政だよりの事前掲載など、他の方法を取り入れるべきである。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	本計画で設定した指標の中でも、建築着工数、延床面積は、5年ごとに実施される都市計画基礎調査の調査項目の一つであり、また、観光案内所利用者数、JR熊本駅乗降車数は各年度で把握できるため、今後も引き続き評価していくことが可能である。	・毎年、計測されている実績数値を指標とすることは、PDCAサイクルをまわす上で、費用・労力の観点から非常に有効である。
	うまくいかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	・指標設定に際しては、計画書作成当初から統計課など関係課と十分に協議・連携する。
	うまくいかなかった点	指標に設定した、“商業・業務施設の新規進出”は、経済状況など様々な要因の影響を受けやすいので、指標設定の際には慎重に検証する必要がある。	

### 添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・今後のまちづくり交付金の活用予定  
熊本駅周辺地区の2期目の予定はないが、今後は社会資本整備総合交付金としてハード事業だけでなく、ソフト事業の重点を置いたまちづくりを推進していく必要があると思われる。
- ・今後事後評価を予定している地区  
本市においては、平成23年度に熊本市都心部地区において事後評価を実施予定である。当地区の今回の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	熊本市のホームページを活用	平成22年10月1日～平成22年10月14日 (14日間)	平成22年10月1日～平成22年10月14日 (14日間)	電子メール、FAX、郵送	熊本駅周辺整備事務所
広報掲載・回覧・個別配布	周辺自治会への公表周知回覧 市政情報プラザにて閲覧	平成22年10月1日～平成22年10月14日 (14日間)	平成22年10月1日～平成22年10月14日 (14日間)		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	-	-	-		

住民の意見	意見なし。				
-------	-------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	東海大学大学院工学研究科長 渡辺千賀恵 熊本大学工学部准教授 田中智之 崇城大学工学部建築学科 講師 西郷正浩	平成22年11月16日	都心活性推進課 (都市再生整備計画担当課)	「熊本市まちづくり交付金評価委員会運営要綱」により実施する。	独自に設置
その他の委員	-				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標6については、目標値を高め設定しすぎであるとの指摘を受けた。 ・都市再生整備計画作成当初から、事前に統計担当部署と綿密な協議をすることや、評価委員会を事前に立ち上げることにより、適正な目標・指標設定ができるのではないかと指摘を受けた。
	実施過程の評価	・まちづくり推進協議会や都市空間デザイン会議により、きちんとシステムが確立されているという意見がだされた。
	効果発現要因の整理	・熊本駅周辺は、現在も整備が進行中であるため、効果発現は開業後の平成24年度に確認を行うことが妥当であるという意見がだされた。
	事後評価原案の公表の妥当性	・公表の結果、意見が0件であったため、ホームページ掲載や情報公開窓口での閲覧だけでなく、地元で報告会を行うなど公表の手法を工夫すべきとの指摘を受けた。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価手続きは妥当に進められたことを委員会の場で確認した。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・都心部と熊本駅周辺をつなぐ一体のまちづくりが重要になってくるという意見がだされた。
	フォローアップ	・平成24年度に実施するということで確認した。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

## (7) 有識者からの意見聴取

### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
-	-	-
-	-	-

有識者の意見	-
--------	---

# 社会資本総合整備計画

くまもとえきちく  
熊本駅地区都市再生整備計画

平成23年 2月23日

熊本県 くまもと し  
熊本市

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	熊本市	地区名	熊本駅周辺地区	面積	358	ha							
計画期間	平成	13	年度	～	平成	28	年度	交付期間	平成	18	年度	～	平成	22	年度

### 目標

大目標：熊本の玄関口にふさわしい「出会い」と「ふれ合い」の副都心の形成

- 目標－1 主要幹線街路や生活道路の整備を行うことにより、商業・業務・観光・文化等の都市機能の集積を図る。
- 目標－2 人にやさしく利便性の高い生活環境を形成し、新しい都市生活を創造する。
- 目標－3 広域交通結節機能の強化を活かし、多様な人々の交流促進と賑わいのある都市空間を創出する。

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

- ・熊本駅の周辺は、熊本市の都心部から南西に約2km離れた位置にあることや、東を1級河川白川や坪井川、西を花岡山・万日山に囲まれ、面的に広がりがなく、また地区がJR鹿児島本線により東西に分断されているなどの地理的条件に加え、都市計画道路等の都市基盤施設が脆弱であり、自動車社会の進展による鉄道離れ等から周辺商業は衰退し、熊本都市圏における主要な拠点地区として機能していない現状にある。
- ・熊本駅の東側には駅前広場が設けられ、路面電車やバスが発着する交通結節点となっているが、現在は、旅館、小規模商店、住宅等が混在し、最近ようやく一部、ホテルや予備校やマンション等の立地もみられるようになってきているが、全体としては、低・未利用地が多く、活力や魅力に乏しい街並みが形成されている。
- ・熊本駅の西側には乗降口が設けられておらず、鉄道によって東側の市街地と隔てられていることもあり、古くから主に住宅地として市街地が形成されてきたが、近年は土地利用の更新が進まず、駐車場や空き地などの低未利用地も多く存在する。また、4m未満の道路も多く公園の整備も遅れているなど、都市基盤が脆弱であり、密集した住宅地であるため防災上も不安な状況となっている。
- ・熊本市の上位計画においては、熊本駅周辺地区は熊本駅の交通拠点性を活用した副都心としての位置付けがなされており、平成9年には県・市により「熊本駅周辺地域整備方針」が定められ、都市基盤整備や機能導入にかかる検討や一部の事業が開始されている。
- ・その後、九州新幹線全線開通の2年前倒しに対応するため、平成16年5月に「新幹線新駅周辺整備推進会議」を県市で設置して議論を重ね、平成17年6月には「熊本駅周辺地域整備基本計画」の策定と、県市それぞれの役割を定めた新たな県市協定を締結し、熊本駅周辺の都市空間づくりへむけた本格的な取り組みが始まっているところである。
- ・また、これらの取組と並行して、平成16年度より「熊本駅周辺地域まちづくり推進協議会」と「新熊本合同庁舎及び周辺地区整備協議会」を設置するなど、地域住民、経済界と一体となったまちづくりの推進に取り組んでいる。

#### 課題

- ・熊本駅には乗降口が東側のみであり、駅直近部における東西市街地の連続性が極めて低い状態である。今後、新幹線開通により、交通結節点としての役割が一層高まることになるが、現在のままでは、交通結節機能の強化や交通拠点性を活かした東西の一体的なまちづくりが困難であるため、西口駅前広場の新設や在来線の連続立体交差事業と併せて東西市街地を結ぶ幹線道路の整備に取り組む必要がある。
- ・熊本駅東側については、熊本の陸の玄関口でありながら、都市機能の集積は小規模に止まっており、低・未利用地が多く分布し、また、街並みの魅力も不足している。今後、副都心にふさわしいまちづくりを促進するためには、新幹線開通を絶好の機会としてとらえ、先導的な高次都市施設の導入や都市空間の魅力向上を図る都市基盤整備等に取り組む必要がある。
- ・熊本駅西側は、都市基盤の整備が遅れており、駅の直近に位置する利便を備えながら、高齢化、人口減少が続いている。現在、良好な居住環境が整った都市型居住地としてのまちづくりを促進するために、土地の整序や都市基盤整備を行う土地区画整理事業を施行中である。

#### 将来ビジョン(中長期)

- ・「第5次熊本市総合計画・まちづくり戦略計画」において「魅力ある熊本駅周辺のまちづくり」が重点戦略の一つとして位置づけられており、「熊本駅東西市街地の一体化」、「熊本駅を中心とした交通結節機能の強化」及び「熊本駅東側を中心とした都市機能の充実」に取り組むこととされている。
- ・「熊本市都市マスタープラン」(平成13年3月)の都市空間の将来像として、熊本駅周辺は副都心として位置づけられており、都心とあわせて県都にふさわしい高次の都市機能の集積、広域交通結節機能の強化、玄関口にふさわしい風格ある街並み形成を図ることとされている。
- ・熊本県・熊本市で策定した「熊本駅周辺地域整備基本計画」においては熊本駅周辺の地域の将来像を「出会いとふれ合いの副都心」としており、また、まちづくりのテーマとしては「人・文化・自然と出会う くまもと・交流舞台～パーク・ステーション～」となっている。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	目標年度	
				基準年度	目標値	目標年度	
熊本駅観光案内所利用者数	人/年	熊本駅構内にある観光案内所利用者数	熊本の玄関口として交流拠点機能が高まった結果として2割増を目指す	42,395	50,000	16	22
整備基本計画区域内建築着工数	件	整備基本計画区域内の建築確認件数の5年間の累計	生活・文化の交流拠点性が高まった結果として倍増を目指す	36	80	H12～16	H18～22
整備基本計画区域内狭隘道路率	%	整備基本計画区域内の幅員4m未満道路延長の道路総延長に対する比率	人に優しい利便性が高い生活環境が形成された結果として4割減を目指す	18.7	10.0	17	22
熊本駅乗降者数	人/年	熊本駅改札における乗降者数	広域交通結節点の核として、その周辺に魅力ある都市空間を整備することにより、減少傾向にある熊本駅利用者数を平成16年度時点まで回復させる	7,788	7,800	16	22
都市再生整備計画区域内住宅床面積	m <sup>2</sup>	都市再生整備計画区域内の新築住宅床面積の5年間の累計	生活・文化の交流拠点性が高まった結果として3割増を目指す	7,455	10,000	H12～16	H18～22
都市再生整備計画区域内商業・公共施設等床面積	m <sup>2</sup>	都市再生整備計画区域内の新築商業・公益施設等床面積の5年間の累計	都市基盤整備により都市機能の集積が図られた結果として2倍増を目指す	18,232	44,000	H12～16	H18～22

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><b>方針1:都市基盤整備による都市機能の集積</b>            ・主要幹線街路や生活道路の整備により、都市機能の集積を図り地区の再生を行なう。</p>	<p>街路事業(都市計画道路・熊本駅南線) &lt;基幹事業、市&gt;            街路事業(都市計画道路・新土河原出水線) &lt;基幹事業、市&gt;            合同庁舎周辺道路整備事業 &lt;基幹事業、市&gt;            街路事業(都市計画道路・春日池上線外3路線) &lt;関連事業、県&gt;            連続立体交差事業(JR鹿児島本線外) &lt;関連事業、県&gt;            (仮)市道二本木線 &lt;基幹事業、市&gt;            地区施設(南A地区) &lt;基幹事業、市&gt;</p>
<p><b>方針2:人にやさしい利便性の高い生活環境の形成</b>            ・新しい都市生活の創造に向けて、熊本駅西土地区画整理事業等による居住環境の整備を行なうとともに、関係権利者と協議を行いながら、地元住民の主体的なまちづくりを推進する。</p>	<p>熊本駅西土地区画整理事業(都市再生) &lt;基幹事業、市&gt;            熊本駅西土地区画整理事業(市単独費分)(地域創造支援事業) &lt;提案事業、市&gt;            熊本駅西土地区画整理事業(道路特会) &lt;関連事業、市&gt;            市街地形成地区整備推進事業(まちづくり活動推進事業) &lt;提案事業、市&gt;            コミュニティセンター整備事業(熊本駅西) &lt;提案事業、市&gt;            万日屋敷公園整備事業(公園) &lt;基幹事業、市&gt;            住宅市街地総合整備事業(熊本駅西) &lt;関連事業、市&gt;            コミュニティセンター整備事業(古町) &lt;提案事業、市&gt;            屋上等緑化助成事業 &lt;提案事業、民間&gt;            白川河川敷利活用 &lt;提案事業、市&gt;            五福まちづくり交流センター改修 &lt;提案事業、市&gt;            コミュニティセンター整備事業(白坪) &lt;提案事業、市&gt;</p>
<p><b>方針3:情報発信・交流拠点として利便性が高く魅力ある都市空間の創出</b>            ・市街地再開発事業に伴う地域交流センターや情報交流施設など交流拠点を整備するとともに、民間と行政の連携のもと魅力ある公共空間の整備を行なうことで賑わいのある都市空間の創出を図る。</p>	<p>地域交流センター整備事業(熊本駅前東A地区) &lt;基幹事業、市&gt;            情報交流施設(地域創造支援事業) &lt;提案事業、市&gt;            市街地再開発事業(熊本駅前東A地区) &lt;関連事業、市&gt;            熊本駅都心間まちづくり調査 &lt;提案事業、市&gt;            坪井川親水空間 &lt;提案事業、市&gt;            路面電車優先信号整備事業 &lt;提案事業、市&gt;            ストリートファニチャー整備事業 &lt;基幹事業、市&gt;            熊本駅西口駅前広場・街路等高質空間形成事業 &lt;基幹事業、市&gt;            熊本市熊本駅都心間協働のまちづくり推進制度 &lt;提案事業、民間&gt;            地下水都市熊本空間創出事業 &lt;提案事業 市・民間&gt;            市電軌道敷緑化事業 &lt;提案事業、市&gt;</p>
<p>その他</p>	
<p>・熊本駅直近の街区においては、地域住民と一体となった協議の場を設置し、継続的に地区計画や優良建築物等整備事業などの誘導を行い、土地の高度利用化を促進するなどの市街地整備に取り組み、平成30年度を目的に良好な景観、魅力的な街並みの形成を図る。</p> <p>・熊本駅周辺において、駅前広場や万日山・坪井川などのアメニティ軸を中心に、人と緑や水などの自然環境が共存した快適な歩行空間の確保に向けての検討を行う。</p> <p>・平成23年度以降においても、連続立体交差事業の進捗と合わせて、鉄道と交差する東西の幹線道路の整備や鉄道施設跡地を活用した東口駅前広場の整備を進め、引き続き熊本駅の拠点性を高める事業を行う。</p> <p>・熊本駅周辺において、公益施設整備を行い、防災機能の向上を図る。</p>	

